

合同

No. 494

「神の息吹によって」

つるかわ台教会牧師

三浦 寿夫



新しいことが始まる時、新しい事業がなされる時、なにか新しい流れが起こるとき、そこには活力を伴う息吹があります。そして、その背後に大きな潮流ともいえるべきうねりを感じられるものです。

今年の聖霊降臨日は6月になりました。ペンテコステにわたしたちは、何を受け取りますか。

使徒言行録を読みながら、わたしたちが受け取るのは、福音の生み出す新しい潮流の息吹です。主イエスが蒔いてくださった種が、大きく成長していく動きが始まる期待感です。

主イエスが、天へ上げられる前に、弟子たちに語られたことを思います。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒言行録1章8節)。

この力という言葉は、ダイナマイトの語源となった言葉で、爆発的でなにかを生成していく力という意味合いの言葉です。

その力は、ヨハネによる福音書で、イエスが約束してくださった、父と子によって与えられる真理の聖霊であり、弁護者として来てくださり、共にいて、わたしたちの内において助けてくださる方によって与えられるものです。

わたしたちは、その力を受けてイエス・キリストの証人となります。

弟子たちが一つになって集まっている、そこに激しい風が吹いてくるような音と共に炎のような舌が現れ、一人一人の上にとどまったと記しています(以下、使徒言行録2章)。いま、まさに息吹と共に聖霊が降ったのです。炎は燃える柴(出エジ

プト記)やイザヤの召命のときにその口に当てられた炭火や、洗礼者ヨハネが「その方は、聖霊と火であなただちに洗礼を授ける」といった火を連想させます。神の臨在です。

そして、一同は聖霊に満たされ、“霊”に促されてほかの国々の言葉で話し出しました。何を話したかという、神の偉大な業とその意味でした。

その後のペトロの説教にすべて現されています。イスラエルの民が、律法を知らない者たちの手を借りて主イエスを十字架につけたこと、そして神はこの主イエスを死から復活させられたこと、それによって神は、主イエスをメシアとされたこと。

だから、悔い改めてイエス・キリストの名によって洗礼を受けるように。そうすれば、聖霊が与えられると。ここに、神の憐れみと愛によって与えられたメシアの証言がなされています。主イエスが宣言された通り、ペトロは主イエスの証人となって、福音を告げ知らせ始めたのです。

この後に記されている、福音が伝わっていく過程は、神の息吹を受けた弟子たちを通して働かれる聖霊のわくわくするような御業の集積です。

普通の一般市民だった彼らが、聖霊と共にイエス・キリストの証人として活躍する姿とその息吹が、世界中に広がって、いまここにいるわたしにも届いているのです。

ペトロは説教の中で「邪悪なこの時代から救われなさい」(40節)と語りました。わたしたちの生きる現代社会もさまざまな意味で邪悪な時代となりました。コンピュータの進化やデジタルネットワークの拡大と高速化によって、利便性と共に、うそや悪の道具ともなっています。端末から流れ出るのは、多くの必要な情報と共に、人をだますための情報や表面のイメージに隠されたうそもあります。愛が冷えた時代です。

人々が救いを求めて、叫び声を上げています。神は、この時代を見て、憐れみに胸を焼いておられるのではないのでしょうか。

このペンテコステに、この時代を生きるわたしたちの魂が奮い起こされて、神の愛の息吹に突き動かされたいと思います。聖霊がわたしたち教会に、もう一度新鮮な息吹を吹き込んでくださるように、一つとなって祈り求めましょう。